

島津歳久（金吾さあ）について

島津歳久（金吾さあ）は、薩摩の戦国大名として知られる島津貴久の三男で、兄は義久・義弘になります。弟が家久です。歳久は島津家の領国拡大に貢献しました。

さつま町では天正8年（1580年）宮之城の領主となって虎居城を居城としました。豊臣秀吉が宮之城を通過したときに歳久の家臣が秀吉の籠に弓矢を射かけた伝説も残っています。歳久の死後は金吾さあと呼ばれ、薩摩半島各地の神社や、さつま町内の平松神社や大石神社で祀られています。



金吾さあ講
(宮之城歴史資料センター蔵)



島津金吾歳久等の供養塔群
(さつま町宮之城屋地)



島津歳久の位牌
(日置市吹上歴史民俗資料館蔵)



虎居城（さつま町宮之城屋地）



島津歳久の家臣が秀吉の籠を襲った伝承を描いた作品
松永南楽画（宮之城歴史資料センター蔵）



虎居城跡出土かんざし（鹿児島県立埋蔵文化財センター蔵）